



公共の温泉郷

1896年、松涛園、天狗庵などの温泉旅館が開業し、温泉事業は少しずつ盛んになり、各温泉旅館や温泉クラブなどが次々と伝統的な旅館制度や日本の芸妓を導入し、新北投一帯の温泉事業は日本国内の多くの温泉郷のように、有名な高級リゾートになりました。第二次世界大戦終結後、国民政府が台湾へやってきても、日本統治時代にレジャースポットとして成長した温泉事業の経営手法は禁止されず、規則を定めて管理しました。その後、北投は遊興の場であるだけでなく、日本人観光客が1960-1970年代に必ず訪れた場所でもあり、ベトナム戦争時にはアメリカ軍が休暇を過ごす場所の1つになっていましたが、1979年に公娯制度は廃止され、北投は台湾の癒しの地の代名詞となりました。

歴史の記憶

北投温泉博物館の前身は北投公共浴場でしたが、時代ごとにその名を変え、日本統治時代の公共浴場は第二次大戦後に中山堂、民衆服務社となりましたが、管理部門が更迭され、やがて荒廃してしまいました。北投温泉博物館はまるで巨大な「時の宝箱」であり、異なる時期の人物の記憶と時代の精神を収め、静かに北投の溪畔にそびえ立ち、北投の発展の歴史に寄り添うと同時に証明しているのです。このため、当エリアの左右には北投温泉博物館や周辺の歴史写真を展示しており、散らばった時の中に歴史を少しずつ垣間見ることができます。



大北投との出会い

1994年、北投小学校の生徒たちと教師が郷土学習の資料を集めている最中に、7年近く放置されて荒廃した北投公共浴場を発見しました。各方面の努力によって、1997年に遂に三級古跡（法制度の改正により、現在は市定古跡）に指定され、修復を経て1998年に「北投温泉博物館」の名前で再度利用されるようになりました。北投温泉博物館は入浴サービスを提供せず、代わりに皆様に北投と温泉の歴史を紹介しており、新たな浴場の公共精神が受け継がれています。同地区では公共浴場が温泉博物館へ変身を遂げた歴史と建築の美しさを紹介し、また、インタラクティブマップで観衆に北投エコミュージアムを展開しています。





北投溪の宝石

北投溪の川底の高低差が日本人の言う小さな「滝」を生み出します。北投溪には以前、5つの「滝」がありました。北投の温泉産業が本格的に発展する以前、多くの人々が裸になって滝にある露天温泉に直接浸かりました。これが北投入浴文化の始まりだと言えます。北投溪は更に希少鉱物である北投石の産地でした。北投溪から湧き出る地熱谷の青硫黄温泉と溪滝地形が育む北投石は、単に台湾の地名に因んだ名前の鉱物というだけでなく、生成には長い時間が必要で、加えてその特殊な鉱物の性質故に極めて貴重で、北投溪の宝石と言えます。

台湾語映画のハリウッド

開発初期の北投には温泉旅館が林立し、優美な風景と雰囲気の良さで、台湾語映画における天然の撮影スタジオのようでした。そこで撮影された映画は百本を下らず、北投は「台湾語映画のハリウッド」と呼ばれるほどになりました。現在でもいくつかの昔の台湾語映画の中に往年の北投の姿を垣間見ることが出来ます。



「時空の箱の祝福」で月琴を地元へ贈る

代表的な民謡アーティストの陳明章さんは北投生まれです。彼は月琴文化を伝承するために情熱を傾けました。ここ数年、陳明章さんが起こした教育活動や音楽会、展覧会、カルチャー講座などはたくさんの参加者を魅了しました。

2013年に、北投温泉博物館は北投公共浴場の百年メモリアルイベントを開催していました。台湾月琴民謡協会をはじめ、郷土芸術家の楊輝さんやインスタレーションアーティストのアーグスは上絵した月琴をインスタレーションにして展示しました。このイベントで、「時空の箱の祝福」と命名された100号温博館記念月琴は北投温泉博物館に寄贈され、百年の足跡を印されています。



北投石の故郷

北投石（ほくとうせき・Hokutolite）は世界中四千種類の鉱物の中で唯一台湾の地名で命名された鉱物です。北投石が生成されるのに特殊な地質条件は不可欠で、地熱谷にあるラジウム温泉と「瀧」がその脇役です。1センチの結晶は120年ぐらいいかかるのでとても珍しいと言われています。当館で展示している800キログラムの北投石が一番貴重な宝物に間違いありません。

北投の歴史的出来事

- 1600年** 平埔族は千年の間台湾に暮らしています。ケタガラン族の内北投社、嘸嘸社と嘸嘸別社が現在の北投区一帯に分布していました。
- 1632年**
1664年 スペイン人、オランダ人と平埔族の間では硫黄貿易と各種商行為が頻繁に行われていました。
- 1697年** 郁永河が北投で硫黄を採鉱し、『裨海紀遊』を記述しました。これは現存する最も古い台湾旅行記です。
- 1893年** ドイツ硫黄商人・オーリー氏によって温泉が発見されました。
- 1896年** 台北軍政庁財務課長の松本亀太郎が築いた「松涛園」、旭組の「保養園」と大阪商人・平田源吾が開いた「天狗庵」は台湾で最初の温泉旅館です。
- 1898年** 「衛戍病院北投分院」（この建物は向陽学苑を除いて現存しません）が落成しました。
- 1901年** 淡水線鉄道が開通し、北投駅（汽車駅）の運営が開始されました。
- 1905年** 日本人学者・岡本要八郎が北投で「北投石」を発見しました。これはたった一つ、台湾の地名で命名された鉱石です。北投温泉「湯守観音」の開眼供養会が行われました。
- 1907年** 台湾婦人慈善会は慈善浴場（三銭間と呼ばれる「鉄の湯」）を築いて、一代目の公共浴場でありました。
- 1909年** 平田源吾が『北投温泉誌』を出版しました。
- 1911年** 温泉産業に合わせて北投水道システムが建設されました。
- 1912年** 松本亀太郎は現在の貴子坑に窯場を設立しました。生産された品質のよい陶器は「北投焼」と呼ばれていました。
- 1913年** 「北投公共浴場」が落成。石造りのアーチ橋と優雅な噴水池が大きな特色の北投公園が完成しました。
- 1915年** 起工された「鉄真院」（現：普濟寺）は台湾では珍しい日本真言宗のお寺です。
- 1916年** 北投駅と新北投駅までの間の1.2キロの鉄道支線「温泉線」工事が完了しました。「新北投駅」の運営が開始され、北投公園一帯は北投温泉観光の中心として発展しました。
- 1920年** 北投は台北州七星郡北投庄に属することになりました。北投台湾銀行が落成しました。
- 1921年** 現在の「北投文物館」である佳山旅館が建設されました。台湾に現存する最大の木造日式独立住宅の一つです。
- 1923年** 日本人が竹子湖あたりの畑で蓬莱米を栽培しました。裕仁皇太子殿下が台湾に行啓された際、北投の公共浴場を見学し、北投溪の畔を実地調査・渡渉なさいました。「皇太子殿下御渡渉記念」の文字が刻まれた石碑が残されています。
- 1925年** 天星山不動明王（現：不動明王石窟）が竣工されました。
- 1929年** 草山衆楽園公共浴場（現：台北教師研修センター）が落成。
- 1949年** 北投は陽明山風景区に配属され、町名を台北県北投鎮にしました。
- 1967年** 北投町は台北市所属に変更されました。
- 1979年** 北投の公娼制度が廃止されました。
- 1985年** 陽明山国家公園が指定されました。
- 1988年** 淡水線の廃線とともに北投駅の歴史に幕を下ろしました。
- 1994年** 北投小学校の教師と児童が郷土学習の資料を探る中で荒廃した「北投公共浴場」を発見し、地元の文化歴史研究者たちと共に古跡保存運動を始めました。
- 1997年** 「北投公共浴場」は内政部によって第三級古跡に指定されました。
- 1998年** 十月三十一日、北投温泉博物館が正式に開館しました。
- 2006年** 台北市立図書館・北投分館は台湾初のエコ建築図書館として再開しました。
- 2011年** 第一回「台湾月琴民謡祭」が開かれて地元で一番盛り上がった秋祭りとなりました。ミシュランガイドは北投市街を三ツ星観光地と登録されました。
- 2013年** 北投石は希有鉱物と政府に指定されました。そして北投溪は「北投石自然保留地」と公表されました。
- 2014年** 北投住民と文化歴史関係者の長年の努力と公的機関の協力によって「新北投駅」旧駅舎が彰化「台湾民俗村」から返還が決定。
- 2016年** 新北投駅旧駅舎の修復工事を開始。
- 2017年** 新北投駅旧駅舎が元の場所でも再び竣工。「百年駅舎 風華再現」イベントを開催して来場者へ開放。
- 2018年** 1年休館して古跡を修繕後リニューアルオープン。北投温泉博物館 20周年を迎える。
- 2023年** 北投公衆浴場110周年、北投温泉博物館開館25周年を慶祝する。